

令和5年度 自己評価・学校評価実績報告書

学校法人和泉マリア学園 和泉カトリック幼稚園

当園ではこの度、令和5年度の幼稚園評価として、教職員自己評価を実施致しました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの自己評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

・教育目標

- ・ 幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味を持ち、探索し思考する過程を大切にしたい教育を目指している。
- ・ 幼児期にふさわしい生活が展開されるように保育者との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活を目指す。
- ・ 少人数クラスを活かして縦割活動を保育に十分取り入れ、年長児への憧れや年少児へのいたわりの心を育て、自然に友達と密接にかかわって展開する生活がなされるよう配慮する。
- ・ 更に、少人数クラスを活かし、すべての職員が園のすべての子ども達を把握することを目指す。
- ・ カトリック的教育環境のもとで幼児の円満な心身の成長発達を促進し、一人ひとりが神から愛されている大切な存在であることに気付かせ、お互いを大切にすることを育てる。

・今年度の重点目標

評価目標に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組む。

・評価項目と取り組み状況

評価項目		取り組み内容		取り組み状況
1	教育方針・目標	教育方針・目標は、園の特色を生かしたものになっているか	A	・ 子どもたちが主となり生活し、その時期・その個人に応じた自分らしさ、良いところを伸ばすように配慮している。 ・ 一つ一つの活動に対して、子どもたち一人一人が楽しめるよう目標・計画を立てている。 ・ 今後も、子どもたち一人ひとりが、様々な経験・体験から学べるように、様々な方向からのねらい・活動を検討していく。
2	指導計画の作成と評価	個々の行事について、幼児の発達を考えながら実施し、子どもの実態やねらい等について教職員と話し合い、見直しを行っているか	A	・ 行事前に学年ごとに話し合いを行い“ねらい”を明確にしてから、行事に臨むよう取り組んでいる。 ・ 季節に合った行事を企画し、年齢などを考慮して、適した活動になるよう変化をつけて実施している。 ・ 今後も、行事の内容に変化を付けたり、新しいことを考えていくよう取り組む。 ・ 反省ノートを、次の見る時に分かりやすく書き方で残すなど心がけて、次に生かすよう工夫する。
3	教育環境の構成	幼児を温かく受け入れる環境をつくり、人と関わる力が育つような配慮をしているか	A	・ 新入園児も、すぐに新しい環境に慣れることが出来るよう家庭の延長と、少人数のクラスとなっている。 ・ 園内だけでなく、様々な環境で様々な人たちと関わられる機会の設定を検討していく。 ・ 少人数クラスを活かし、今後も学年を超えた関わりが出来る環境を大切にしていきたい。

自己評価・学校評価実績報告書

和泉カトリック幼稚園

評価項目		取り組み内容		取り組み状況
4	幼児のみとりと理解	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう努めているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の「話したい」「聞いてほしい」という気持ちを受け止めていけるよう心掛けている。また、幼児の表情などからもちょっとした変化に気付くことが出来るように努めている。 ・担任以外の先生も他の部屋を回って子ども達の中に入って、気付いたことがあればその状況を伝えるようにしている。 ・今後も、担任以外の先生が積極的に関わりを持てるよう、様々なアプローチができるよう検討していく。
5	教職員同士の協力・連携	幼児のことについて常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有しているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の集まり、帰りの集まりと、毎日のテイ タイムを兼ねたミーティングで 園長と保育者がその日の子ども一人ひとりの姿・動き・発見について自由闊達に情報交換を行い、子ども達が日々の園生活を楽しく喜んで登園できるよう取り組む
6	研修・研究への意欲・態度	自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行い、そこで得た悩みや学びを他の教師や主任、園長と話し合うことができるか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで研修会に参加することによって研鑽を重ね、毎日、一日の活動・子どもの様子・反省を検討し、日誌に記入し確認している。 ・学年や他の先生、園長先生に相談し、アドバイスを受ける体制が整っている。
7	安全への配慮	けがや事故には特に気を付け、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行っているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で危険を察知できるように、年少 年中 年長と学年があがる毎に保育者も関わり方を変えたり、玩具・遊具の扱い方を指導し、また、ホールでの毎朝の素話や紙芝居・ビデオなどを通じて社会のルールを身につけられるよう取り組んでいる。
8	安全管理体制の整備	緊急時(事故やけが、感染症の発生時など)の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいるか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・バス置き防止システムを導入し、バスの事故発生時等の対応手順をマニュアル化し、全教職員が理解できるようにしている。 ・ケガの対応については、その都度、報告する機会を設けている。 ・救命救急の講習を受講できる機会を設け、更新の講習も受けている。
9	情報発信と受信	日々の保育の様子はHP上のブログにてお伝えし、個々の子どもの様子は、直接話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝え合っているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログ、園便り、クラス便り、連絡帳、電話を用いて、適宜お伝えをしている。また、保育参観を行うなど、日頃の保育を知って頂く機会を設けている。 ・今後も、クラスだよりについて、クラス担任だからこそ伝えられるエピソードなども充実させていく。
10	保健関係の発信と受信	保育中のけがや病気は、速やかに保護者へ連絡を入れ、状況や原因を説明の上、通院するなどの対処をしているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガが発生した場合、園長と相談するとともに保護者に連絡し、必要があれば医療機関に連れていくようにしている。また、子どもが家に帰ってからも様子を伺うように努めている。 ・これまで通り、他クラスの出来事にも連携をとることを大切にしながら対処していく。
11	地域への開放と支援	園が持つ専門的な技術や情報、環境・設備等を、地域に開放・提供し、子育て支援に取り組んでいるか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度、親子登園・園庭開放を実施、親同士が交流できる場や、保護者と関わる場を提供している。また、保育相談も在園児に拘らず行っている。 ・親子登園の内容の更なる充実を検討する。 ・園行事の時に、地域の方々にも参加して頂けるよう検討していく。 ・今後も未就園児と遊び・関わる機会の充実を検討していく。
				【評価の基準】
				A 十分達成されている
				B 達成されている
				C 取り組まれているが、成果が十分でない
				D 取り組みが不十分である

自己評価・学校評価実績報告書

和泉カトリック幼稚園

. 取り組むべき課題		
1	園の方針・想いの共通理解を深める	園の方針・想いを全教職員で再確認し、共通理解を深める機会を設定する。
2	教育環境・活動の充実	個々の子ども達が、様々な経験・体験から学べる（自分で考える力・生きる力等）ように、様々な方向からのねらい・活動内容を検討し、さらなる教育活動の充実をはかる。
3		日常の中などで、学年を超えた子ども達の関わりへの機会・環境を充実させる。
4	行事内容の充実	行事後の反省ノートを、次に生かせるようにさらに工夫する（改善点を分かりやすく記載する等）とともに、行事の内容に変化をつけるなど、新しい活動を検討する。
5	特別支援教育	特別支援を必要とする幼児一人ひとりに対応した個別の指導計画を作成し、保育者同士で個々の子どもに適した教材や伝達方法について分かち合い、積極的に関係する研修会に参加し、医療・福祉の関係機関及び保護者との連携を密にしていけることを徹底してゆく。
6	安全管理体制の強化	災害（地震）発生マニュアルを見直し・整備し、教職員間で周知徹底をはかる。
7	保護者との連携強化	園長の毎月発行する園だより（いずみ）を通じて園の現状・教育方針が伝えられる様に努め更に、クラスだよりについては、クラス担任だからこそ伝えられるエピソードなどを充実させ、保護者の方との共通理解をさらに深めるよう取り組む。
8		
9	地域との関わり・連携の強化	園庭開放等の内容の充実を検討し、園と利用者の方々との共通理解をさらに深めるよう取り組む。（保育に関する情報提供、相互コミュニケーションの機会の充実など）
10		地域の方々・団体等の園児との関わりを充実させる（小学校、老人ホームとの交流・連携など）
11	卒園後も子どもたちの心の拠りどころとなれるような園作り	激しく変革していく社会の中で家庭の崩壊、家族としての在り方などの変革に心を留め、子どもたちがいつもアットホームな安定した環境の中で、保育者や友達と心豊かに成長してゆけるように配慮し、園を巣立った後も必要な時、いつでも立ち寄れるような園作りを更に目指す。また、コロナ禍が少し落ち着いたのを鑑み、2年間休止していた12月第二土曜午後2時から5時までの卒園生のクリスマス会を再開し、少1から中3までの45名の卒園生と共に、お互いの情報交換や 祈り・ゲーム等、和やかで楽しい雰囲気の中で時を過ごし、一年後の再会を約して散会した。

**令和5年度 和泉カトリック幼稚園
学校関係者評価委員会名簿**

役職など	氏名	
年長クラス保護者	井阪 紀子	
"	大谷 恵美	
"	松原 幹子	
人数合計		3名

令和5年度の学校関係者評価委員会は 令和6年3月5日 午後1時から
和泉カトリック幼稚園 応接室にて 園長と上3名と共に評価実施

- その他 評議員からの進言 1. 運動会当日の観覧席確保のための「くじ」、少人数の為 不要では？
教職員の検討結果 → 伝統として実施していたが、進言を検討し、今後 実施なしとする。